

J F E

「制振壁」で評定取得

7種類目 利便性高まる

JFEスチールとJFEビルは14日、建物の地震対策として部材の一部や端部に使用される「制振壁」の構造安定性と設計方法を一般財団法人日本建築

センターの評定を3月に取得したと発表し、すでに評定取得しているプレースタイプ(4種類)、間柱タイプ(1種類)、壁型タイプ(1種類)に次ぐ7種

類目となるもので、これにより建築構造設計者が利用できる制振アイテムが広がることになり、利便性向上につながる」と期待される。「制振壁」は、JFE

スチールが開発した建築構造用低降伏点鋼材を使い、JFEビルが製造(指定工場製)・販売を行っている制振デバイス。1平方メートル当たり100N(二

ユートン)や225Nなどの低降伏点鋼材を地震エネルギーを吸収する鋼板パネルとして使い、リブ補強することで、地震時にパネル全体が安定的に地震エネルギーを吸収し、巨大地震や長周期地震動に対する超高層建築などの被害を抑制する。今回、両社は地震の繰り返し荷重に対する疲労特性を明確にしたうえで、構造安全性と設計法を申請していた。